

平成30年度第1回富里市産業振興推進会議議事録

- 1 日 時 平成30年10月30日（火）午後2時から午後3時25分
- 2 場 所 富里市役所本庁舎3階第3会議室
- 3 出席者 小川加苗委員，尾崎悦子委員，寒郡茂樹委員，飯寄富雄委員，
原幸司委員，吉田武重委員，篠崎慎一委員，河田厚子委員，
中山健アドバイザー
富里市副市長
(事務局) 商工観光課長，商工観光課事務局

〔会議次第〕

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 副市長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 議 題
 - (1) 会長・副会長の選出について
 - (2) 会議の公開について
 - (3) 富里市産業振興基本条例，富里市産業振興ビジョンについて
 - (4) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

〔会議概要〕

1 開 会

（事務局より開会のあいさつ。会議の議事録作成のため発言内容を録音することを報告）

2 委嘱状交付

（副市長より委嘱状の交付）

3 副市長あいさつ

（副市長あいさつ）

4 委員紹介

（委員による自己紹介）

事務局 副市長は公務のため、ここで退席となります。

（副市長退席）

事務局 今回の富里市産業振興推進会議は、委員委嘱後最初の会議となるため、会長が選出されるまでの間、事務局で会議の進行を務めさせていただきます。

ここで本日の会議の定数の報告をさせていただきます。本日は過半数以上の委員の出席がございますので、富里市産業振興推進会議の運営に関する要綱第3条第2項の規定により会議は成立しております。

5 議題

(1) 会長・副会長の選出について

事務局 会長、副会長につきましては、会議の運営に関する要綱第2条第1項の規定により委員の互選により定めることとなっております。立候補または推薦などございませんでしょうか。

（委員から寒郡委員を会長に推薦する発言あり）

事務局 寒郡委員を会長にと推薦がございましたがいかがいたしますか。

（委員から異議なしの発言あり）

事務局 寒郡委員を会長に選出することで可決されました。

これより会議の進行を会議の運営に関する要綱第3条第1項の規定により会長にお願いします。

（寒郡会長が会長席に移動）

事務局 寒郡会長あいさつをお願いいたします。

（会長あいさつ）

会 長 それでは、副会長の選出を議題とさせていただきます。いかがいたしましょうか。もし、事務局案があれば、お願いします。

事務局 事務局としましては、富里市農業協同組合代表理事組合長の根本委員にお願いしたいと考えております。本日欠席ではございますが、そのように考えております。

会 長 もしよろしければ、根本委員に副会長をお願いしたいと思いますがいかがですか。

 (委員から異議なしの発言あり)

会 長 根本委員に副会長をお願いしたいと思います。

会 長 議題の(2)会議の公開について事務局から説明をお願いします。

 (資料により説明)

会 長 これまで2年間話をしてきておりますので、新しく委員になられた方は戸惑うこともあると思いますが、私の理解としては、観光振興アクションプランについては出来上がっていて、商工業或いは農業に関するアクションプランを今後考えていきたいと思います。それで、今回の資料のホチキス止めの6ページの中に、富里市産業振興ビジョン行動計画(案)というのがあります。今は項目出しをしておりますが、今後どのようにしていくのかという中で議論していくことになると思います。

 ここで、県経済政策課の篠崎さんがお見えでございまして、県の施策との整合性もございまして、意見等いただければと思います。

C 委員 本日は、皆様のお手元にお配りしているパンフレット「第4次ちば中小企業元気戦略」について、簡単にご説明をさせていただきます。

 この「第4次ちば中小企業元気戦略」ですが、こうした形で同じように委員の方々から意見をいただきながら作成しました。その際にも会長をしていただいたのが、中山先生でしたので、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

 それでは、簡単にご説明させていただきます。資料を1枚めくっていただき、左の上の方に、戦略策定の趣旨ですが、千葉県では本県経済の発展及び県民生活の向上において、中小企業が果たす役割の重要性を踏まえまして、平成19年3月に「千葉県中小企業振興に関する条例」を策定しております。

 この条例に基づく千葉県の中小企業振興の基本方針として「ちば中

小企業元気戦略」を策定しておりまして、概ね3年ごとに見直しを行い、今年の2月、第4次となる「ちば中小企業元気戦略」を策定したところでございます。

戦略の策定にあたっては、ここにありますように、中小企業や支援機関の皆様からの意見を伺いながら策定しておりまして、昨年度1年間で県内各地域を訪問しまして、中小企業の皆様と意見交換をする「地域勉強会」というものを22回、県内に10か所ある、地域振興事務所単位で市町村や商工会、商工会議所の皆様と意見交換をする「市町村ラウンドテーブル」を6回、冒頭に申し上げました、学識経験者等から意見をお伺いする「千葉県中小企業振興に向けた研究会」を4回開催して策定したものとなっております。

資料の下の段にいただきまして、「戦略策定の背景」ですが、県内にある約13万の企業のうち、中小企業が占める割合というのは、概ね99.8%でして、更に県内における常時雇用者数の約74%は中小企業に就業している状況です。

また、この中小企業のうち、約86%は小規模企業でございまして、小規模企業につきましては、仕入先や販売先が県内である企業が大多数であり、地域経済の循環を支えているということが言えます。

しかしながら、表の下段にいただきまして、県内の中小企業は減少傾向にありまして、平成21年から平成26年までの5年間におきまして、企業数が約1万2千の10%ほど減少している状況です。内訳を見ていただくと、特に小規模企業の減少幅が大きくて、小規模企業の振興が現在の課題であると言えます。

企業数減少の要因となります、休廃業と解散と倒産に係る県内の状況を見ますと、倒産件数は一貫して減少傾向にあるのに対して、休廃業や解散の件数は毎年度、高水準で推移しており、倒産よりも休廃業や解散が中小企業減少の大きな要因になっていると考えられます。

こうした背景と最初に申し上げた、中小企業の皆様からいただいた意見を基に、第4次戦略では4つの基本方向に基づき、施策を充実するとしています。この4つの方向をまとめたものが、2ページの上段になります。

基本方向は、「小規模企業の振興」、「中小企業の成長の後押し」、「中小企業の経営基盤の強化」、「地域社会と連携した支援」となります。

こうした基本方向に沿って、中小企業の支援をしていきたいと考えております。

最初の「小規模企業の振興」ですが、小規模企業というのは、先程のグラフにもありましたが、地域住民の生活に身近な商品やサービスの提供や仕入れ販売において、地域と密着した取引関係を築くなど、地域社会において、重要な役割を果たしておりますが、県内の小規模企業は大幅に減少している傾向がございます。

このため、県では小規模企業を積極的に評価、支援していくことが必要であるとの考えのもと、平成29年12月に千葉県中小企業の振興に関する条例を一部改正しまして、小規模企業の事業の持続的な発展を新たな基本理念として掲げているところです。

この条例改正を踏まえまして、第4次戦略では小規模企業の振興を重要な柱として新たに位置付けまして、施策の充実を図ることとしています。

具体的には、制度融資における小規模融資枠の拡大や企業家交流会の参加者へのフォローアップの実施、また、地域貢献をしている小規模企業の表彰等を行うこととしています。

また、円滑な事業承継に向けましては、事業承継ニーズの掘り起こしや事業引継支援センターと連携した支援体制の強化を図ってまいります。

次に、「中小企業の成長の後押し」ですが、より付加価値の高い製品、サービスの開発等の支援を行うため、例えば、IoT導入による支援について、利活用に向けたセミナーの開催や各企業への専門家の派遣を行ってまいります。

また、企業誘致に向けて、空き公共施設等の活用による新たな企業立地促進や地域資源を活用した新商品、サービスの企画から販路開拓まで一貫した支援を行ってまいります。

次に、「中小企業の経営基盤の強化」ですが、多くの中小企業では必要な人材の確保が難しくなっている状況ですので、人材確保や定着に向けた支援を行ってまいります。

人材確保への支援としましては、大学と経済団体、企業の連携によるインターンシップの促進や若者の中小企業に対する理解や促進を図ってまいります。

また、子育て等、離職した女性を対象にセミナーを開催したり、企業との交流会を開催すると共に、企業への働き方改革アドバイザーの派遣をすることなどにより、多様で柔軟な働き方を推進していきます。

最後に、「地域社会と連携した支援」ですが、市町村、支援機関との連携の充実を図りまして、様々な支援情報を集約化し、わかりやすく発信していきたいと考えております。

中小企業の方々からは、なかなか地域において、自分たちの存在が知られていないという声も地域勉強会で寄せられることがございますので、地域における中小企業のプレゼンス強化に向けまして、中学生、高校生の職場体験を受け入れている中小企業の情報を集約化して、県のホームページで公開して、学校に提供するという取組みを今年度から実施したいと考えております。

また、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けまして、おもてなしの機運を高めるシンポジウムの開催や外国人観光客向けの周遊プランのPRなどを図っていききたいと考えております。

以上、駆け足で恐縮ですが、第4次戦略の基本方向を説明させていただきました。

この戦略の推進にあたりましては、2ページの下段の図にありますように、それぞれの施策を連携させながら進めていきたいと考えております。

なお、パンフレットの3ページから6ページにつきましては、それぞれ4つの柱に基づいて、ケースごとにこんな支援を受けたいという時に、こうしたところに相談していただければということで、ケースごとに中小企業への支援策をまとめたものとなっております。

また、最後のページにつきましては、各地域における相談窓口としまして、身近な相談場所である商工会、商工会議所の連絡先であったり、県全体の相談を受ける場所としまして、千葉県産業振興センターの中にあります、チャレンジ企業支援センターやよろず支援拠点の連絡先をつけさせていただいております。以上が説明となります。

会 長 中山先生の方からアドバイス等いただければと思います。

アドバイザー 今日初めて委員として参加された方々は、この会議で何がどう議論されてきたのか、十分おわかりにならない状況かと推察いたします。私は2年前、産業振興ビジョンの構想段階からアドバイザーとして入

らせていただき、また、ビジョンの基礎となるアンケート等にも関わらせていただきました。まず、商工観光課が事務局としてたたき台となる原案を作成され、それを数回の会議の中で議論し何度かの修正を経て、最終的に非常に良い内容のものに仕上がったわけです。

当初、前回まで参加されてきた委員の方々から、ビジョンのたたき台について様々な注文が出ましたが、市の商工観光課の職員の方々にはそれらにしっかりと対応していただき、富里に関する産業データを収集・加工する等、骨を折っていただき、充実した内容のビジョンが完成できたと思います。

この表紙にあります「創ること」、「繋ぐこと」、「培うこと」が、ビジョンのキャッチコピーとなっております。これは内容全体を3つの標語に集約することで、容易にポイントがわかるようにできております。

特に、ビジョンの22ページにございますように、具体的には、「創る」ということは、創業や地域ブランドのことを意味しております。国も一生懸命後押ししております地域ブランドに関しては、「富里ブランド」というものをどうすれば創っていけるかということが、全ての産業を通した課題であろうと思われれます。また、「繋ぐこと」、「培うこと」に関しては、「培うこと」は人材の育成、事業承継等を意味し、加えて、農業については6次産業化等も含まれるでしょう。さらに、「繋ぐこと」というのは、事業承継や人手の確保、農商工連携等が含まれます。

これら3つの言葉にビジョン内容全体が大きく集約されているといえます。

県の施策に関して申しますと、わたくし、千葉県商工労働部の「中小企業振興に関する研究会」に、既に10年以上前からお手伝いさせていただいております。きっかけは、1999年に国の中小企業基本法が大きく変わり、ヨーロッパ諸国にある中小企業憲章を日本でも作るべきとの声が地方の経済団体などから挙がったわけです。そして、そうした憲章や条例を作る全国的な流れの中で、千葉県でも条例化をしていこうということで始まったわけです。

また従来、中小企業に対する見方がどちらかというと「中規模企業」に焦点が当てられていたのですが、小規模企業にももっと目を向ける

べきであるとの主張もされたわけです。これは、中小企業の8割以上は小規模企業で占められているわけですから当然だと思います。商店街だとほとんどが小規模企業であるため、その層をもっと重視しようということです。これも国の意向を受けて県や市町村も同じような形で小規模企業の振興ということを別枠で打ち出し始めたわけです。白書においても『小規模企業白書』が、『中小企業白書』から分離して作成されるようになりました。これは、国が小規模企業を重視するようになってきた表れと理解できます。最近の同書では、今日の問題である人手不足、自営業者の高齢化や事業承継が柱になっていますが、例えば、IoTをうまく活用することで生産量を上げ、効率性を上げた企業例なども掲載されています。

例えば、深刻化する中小企業の人手不足に関しては、基本的には十分な給料を払い魅力ある職場環境が構築できれば解消できるわけです。そのためには、製造業、農業においてはいかに良い製品を高い生産性で作り出すか、小売・サービス業においてはいかに集客するか、集客機能や施設の仕掛けづくりとその活用などを考える必要があります。その実現へ向けて、企業努力だけでなく自治体や市民、学校など産学公民がどのような責務を担い、支援すべきかをビジョンで示し、ロードマップを描き、実行していく必要があります。

私は大学に携わっておりますが、大学生も50万人以上が毎年卒業していきます。かつては大企業志向が強く、中小企業に行く大学生は非常に少なかった。ところが、東日本大震災以降、キャリア教育などの影響もありまして、多くの大学生が中小企業を就職先として考えるようになりました。電通の過労死事件やサービス残業問題、終身雇用制度の崩壊などにより、知名度の高い企業に就職しても3年で3分の1が辞めてしまうという状況になってきました。多く大学生が、企業名だけでは会社の中身はわからない、中小でも良い会社がある、ということに気付いたわけです。つまり、テレビで宣伝している会社が良い会社とは限らないんだと。その後、大学生のインターンシップが普及した結果、職場体験をしていいなと思った企業であれば規模の大小を問わず就職をしていくようになりました。3年ほど前から大学生全体の半数以上が中小企業に就職するようになったということが厚労省のデータで示されております。そういった意味では、自治体の中小企

業振興策の効果は着実に出てきているといえます。また最近、千葉県では、体験型のインターンシップを、高校生にも積極的に拡大し実施されていると聞いています。

中小企業において日々発生する仕事上の課題については、とにかくアクションを起こしてほしいということで、クエスチョンとアンサー方式で、支援機関がどのような問題に対処可能かということが、パンフレットの3、4ページに記載されています。

中小企業の相談所の入り口として設けられているのは「よろず支援拠点」です。近年、全国的に相談件数が増えてきていまして、千葉県内の拠点においても大幅に増えてきております。中小企業に活用を促すとともにこうした機関とも市がさらに連携を深めていくことで相乗効果が大きいと期待できるでしょう。

会 長 ありがとうございました。

それでは、初めて委員になられた方は、いきなりご意見と言われてもなかなか難しいと思いますが、一言でも結構ですので、皆様方からご意見又はご質問でも結構ですので、いただいきたいと思っております。

特に富里市産業振興ビジョン行動計画（案）が今後の直接のアクションプランの一つの引き出しになりますので、こういったことを見ていただきながら、付け加えることやご質問等あれば、ご意見いただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

F 委員 私も今回で2期目となります。

富里市の緑の基本計画を付け加えたいと思っております。酒々井インターが完成してから、バスの駐車場やコンビニ等が何件か完成しましたが、それに対して緑が全然増えないというのを前回の会議で発言しましたが、私ども工業団地は敷地の2割は緑地を確保しなさいということで造ってあります。酒々井からこちらへ来るとタイヤの倉庫やバス会社、コンビニ等がありますが、バスの駐車場も何件かありまして、そこは砂利を敷いて、植木の一つも植えていない状況である。その辺も市の方で窓口があったら、さつきを2本くらい植えてもらえないかというアドバイスが出来ればいいのではないかと思います。もっと緑豊かな富里市になるのではないかと思います。以上です。

E 委員 産業振興ビジョンについても具体的に出来上がっていて、行動計画ということに落とし込んでいく中では、産業振興ビジョンの中で既に

事業者の役割というのが、きちんと条例に盛り込まれているので、これに則って、我々委員もそれぞれの立場でこの場所に来ておりますので、これに則った行動計画をイメージして作っていくことになるのかなと思います。どのような形で進めていけばいいのかまだ見えていない状況です。

特に、行動計画（案）を見たところ、いろいろな支援があったりするけれども、私は経済団体ということですので、やはり経済団体が主体性を持って、きちんと目標を設定して具体的なアクションを起こしていくということが、実質的には産業振興の話の中心になっていくのではないかと感じております。

そのことから、昨日、富里市商店会連合会役員会がございまして、各商店会から役員が2人から3人集まって、飲みながら話をしているわけでありましてけれども、非常に地元根付いたリアルな課題というのがたくさん出てきて、今度具体的にこの話は誰にした方が良いか等、そんな話も出ておりましたので、あそこまで具体的な商店会の役員から話が出るのであれば、是非アクションプランとしては大いに参考になるのではないかと感じました。以上です。

D 委員 富里に来て30年になります。日吉台に住んでおまして、最初の頃は日本人の方が多かったのですが、いつの間にか、アジアの方も多くなってきています。30年の間の変化というのはすごいと感じています。こうした日々を過ごしていると富里を良くする方法はないものかと思っています。

とにかく今、皆様方の知恵で支援策が上がっておりますけれども、農業中心の市町村というのは苦勞しているようです。最近の新聞等から切り抜きをして、何か良い情報がないかなと思ひまして、やはり、個性のある街づくりというのは、市町村が考えるところではないかと思ひます。

富里の場合は、岩崎別邸もあります。こういうものを掘り起こして、観光客に結びつけるような施設に改良すること等を思っております。

これから農業の街を活性化するというのは非常に難しいと思ひますので、どうするかということをお客様と一緒に考えていきたいと思ひます。

I 委員 私は、農家の代表と言いますか、家も農業をしておりますが、ご近

所で空き地が結構ありまして、荒れ放題の土地もある。あまり荒れてしまっていると、イノシシ等近隣の市で、富里でも目撃されたりしておりますが、農作物に影響がありますので、空き地の管理等もできたらいいのではないかと思います。

あと、若者がどんどん地元から出て行ったりしており、ご近所はお年寄りばかりが残っている。近くの小学校も廃校になってしまったりと暗いニュースばかりだが、廃校になった小学校も違うことで活用が出来たり、人がどんどん富里の方に来てもらえるように、私も微力ながらお手伝いしたいなと思っております。以上です。

J 委員 今、お話を伺った産業振興ビジョンの中で、「創る、繋ぐ、培う」ということで、「繋ぐ」という部分で、商工会として事業をされている方だけではなくて、市民の方もよくいらっしゃったり、お電話いただいたりして、何でいらっしゃるかと言うと、業者を紹介してくれといった問い合わせが多い。例えば、屋根が壊れてしまったとか植木の刈込等、シルバー人材センターに頼んだが手に負えないということで、どなたか紹介していただけないかという問い合わせが1日2件ぐらい頻繁にある。そういったところで、市内の業者を紹介するのですが、事業者と市民の方をうまくリンク、紹介できるような場があってもいいのかなと個人的には思いました。やはり、それだけ市民の方の生活というのは、富里の業者さんと少しながら繋がっている部分はあると思いますので、ビジョンとは少し違った視点になるかもしれませんが、そういった場も必要なのではないかと思います。

A 委員 私の今やっている仕事は、市民活動団体同士の間接支援という形でコーディネートしているのですが、富里市の観光振興アクションプランを読ませていただいているのですが、自分たちの仕事にも合致するような中身がたくさんあるなと思っております。

また、自分自身が日吉台地域に住んでいるのですが、その中でカフェをやっておりまして、コミュニティカフェという喫茶店ではないのですが、お茶を飲みながら地域の人たちが集まって、憩いの場のようなものを作っています。以前、南部の方たちが市内見学にいらっしゃって、その時に日吉台は市外ばかり見ているので、南部の人たちと交流することによって、ものすごく富里を見るように意識づけられ、また興味を持ってしまって、私に、南部バスツアーを組んでくださいと

ということまで言われて、それも一つの観光かなと思って読ませていただきました。

旧洗心小学校を回って、坂道の所を回って、あと個人名は言えないのですが、推進委員のところでお茶を飲んで、南部の風景を見て、農村地区を見て帰るという計画を立てています。

富里市は、なかなか観光という際立ったものがないので、小さいものもたくさん含めて観光にできるなと思っています。そういったものをどんどん周知して、アクションしていけたらいいなと思いました。

今年は初めてですので、これから勉強させていただきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願ひします。

会 長 振興ビジョンの行動計画の中に、基本戦略の2番「商工業の振興」の中の「雇用機会の確保」ということで、アクションプランの中に入れ込んでいくのだと思いますが、基本的にはこの地域は、空港もありますし、非常に雇用機会の確保という面では千葉県の中でも優秀な地域だと思います。

逆に、業種的には雇用の確保ができないという部分があると聞いておりますので、その部分に対してどのようなアクションプランを作っていくのかというのは、一つの課題として入れてもらえればありがたいなと思います。

それと、基本戦略の4番の「推進体制の構築」というのは、連携による推進体制の構築ということが施策的にはいろいろなアクションプランやビジョンができて、観光のアクションプランも出来ておりますけれども、推進体制をどうしていくかというのが、一番大きいと言いますか、それがスムーズにいくことによって、施策も反映できるという部分もあると思いますので、今後、商工観光課からいくつか具体的な施策が出てくるかもしれませんが、案を是非ご検討いただければと思います。

あと、「商工業の振興」の中に、商工会長の立場から言えば、会員の方からいろいろ言われていますが、公共調達については是非、一項目入れていただけるとありがたいなと思います。

最後に、成田国際空港との共生、共栄の中で、今千葉県で、このエリアのまちづくりをどのようにしていくかというのをまとめていらっしゃるかと思っています。たぶん来年出るのでしょうか。それに伴って、

大きな方針が出てくるでしょうから、それはやはり入れ込むしかないのだと思います。そうなってくるとタイミングの問題ですね。どの時点でどのような内容で出てくるのかがわかりませんから、それがある程度入れ込めるような形をとっておかないと、同じP D C Aでまわすにしても、途中で新たな施策も入れ込めるのかもしれませんが、そこをうまく見通しをしながらやっていただければと思います。

C 委員 先程、委員の方からも意見がありました。商店会の話し合いの場で、企業の方からすごく良いアイデアが出たというお話もありましたが、我々も元気戦略を作っていくにあたって、企業の方からお話を聞いていることもありますので、そうした良いアイデアがあれば、是非取り入れていただきたいなと思います。

また、事前にビジョンを見させていただきましたが、8ページの方に、市の基幹産業は農業だということで書かれておりますが、それに関連して、14ページの方に、農家の総数は減少しているが、平成27年の販売金額2千万円以上の農家が平成22年と比べて21戸増加していますとありまして、こうしたところが、どうして伸びているのかということが、既にお調べになっているのかもしれませんが、他の農家の方たちにとって参考になるような事例であれば是非こういったものも富里市内の農家の方たちが共有していただくことがあれば、役に立つのかなと思います。そういうこともこれからのビジョンを作るうえで役に立つ情報として入れられればいいのではないかと思います。

アドバイザー 農商工、さらに観光も繋げていくことがビジョンに記載されています。観光関連については、特に岩崎別邸がアクションプランに出ておりますし、オリンピック、パラリンピックもあると思います。

また、成田国際空港との関係では、例えばトランジット・ツアーなどで観光客を呼べるようにしようということになりますと、需要予測次第ですが、駐車場の規模や設置場所を考えておく必要があるでしょう。岩崎別邸の近くにバス・自家用車などが停まれる場所の確保、その周辺にいろいろな富里の農産物の販売だけでなく、それらをふんだんに活用した日持ちのするスイーツなどを開発しようという機運を盛り上げていくことが重要でしょう。

1～2年先を見据えて。例えば、お菓子作りの創業希望者を引き込むことや、空き家を貸し出して創業してもらおうなど、計画的に集積地

とゾーニングを周辺に形成することも考えていくべきでしょう。とりわけ、農業や商工業、学校、市民、観光、マラソン等のイベントをうまく結び付けていくような形で盛り上げていく。将来そこにバスが来た状況を思い描きながら、岩崎別邸の整備を考えていくといいと思います。

E 委員 産業振興ビジョンの行動計画を全部実行していくのは大変なことだと思いますし、どうやってやるのかということもありますが、そもそも誰がやるのかというと、行政の担当部署がやってくれるということではいけないと思います。市民がもっと協力してやっていないといけないと思います。

産業振興についての一つの総論として考えて、もう少し市民が前向きに考えられるように、或いはもう少しインパクトのあるような仕込みもこの会議、メンバーの中で考える必要があるのではないかと思います。

出来る、出来ないは別として、でもやらないといけないと思いますが、この総論として、やはり都市計画については触れておかないといけない。特に事業者である富里市民の諦めムードを変えるのは、もうそれしかないのではないかと考えています。

成田国際空港との共生、共栄とありますけれども、成田国際空港との共栄も今のところ、実感がわからないというのがあって、事業者や市民が考えることというのは、自分の懐にどうやって返ってくるのかということがイメージ出来なければ、協力しようという気にはならないでしょうから、そこをイメージさせることは非常に難しいし時間もかかることですから、そういった意味で都市計画の変更、土地利用計画というところまで出来れば、何かそこに明るい兆しが見えれば、すごくインパクトのある大きなネタになるのではないかと考えています。

先程、委員から空き地が多いとありましたが、また空き家も多いとありました。また、ベンチャーの話もありましたが、そういった話も今の土地利用計画のままでは、現実的には無理だと思っています。自分が何かしようとした時も結局壁になるのはそこなので、前から言われていて、皆さんおわかりのことだと思いますが、敢えて、きちんと盛り込んで、実態に則した土地利用計画というのは、この会議で言わないと誰も触れたくないものになってしまって、利益は近隣市町村

に取られていくのではないかと思います。特に、酒々井インターチェンジ周辺を見ていて、そのように感じている市民はどんどん増えているのは間違いないので、わかりやすく、インパクトがあって、明るいものを提供するということが重要なことではないかと思います。

会 長 規制緩和の話と連動する内容になりますね。

E委員 ただ、規制緩和の中の一つにそれがありますよということでは一般の人には伝わらないと思います。一般の人は、あの土地が空いているのに建物が建たないなど、そういう話が一般だと思いますので、法律の話を一いち気にしない。

やるのであれば、規制緩和の一つではなく、単独できちんと書いた方がいいのではないかと思います。

会 長 この後、商工観光課からある程度、案が出てきて、それに対して皆様方で議論していただくことで、キャッチボールする認識でいいのでしょうか。

事務局 会長の方からございましたが、そのようにキャッチボールをしながら作らせていただきたいと思います。会議の開催の回数が非常に限られておりまして、今年の予算が2回しかない状況でございます。

ですので、素案等、たたき台を作りながら、皆様に意見集約を書面等でお諮りして、最終的に会議で決定していく、若しくは会議でご照会をかけること等、書面での決議をいただくことが何回か出てしまうと思いますので、どうぞご了承いただければと思います。

会 長 新しい委員は、今日いきなり見て、ご意見をいただくのは酷だと思いますので、また改めて書面等も含めてキャッチボールをするということによろしいでしょうか。

会 長 議題(4)その他について、事務局からお願いします。

事務局 事務局からは特にございません。

会 長 それでは、本日の議題は全て終了ということになります。皆様方から補足等ございますでしょうか。

それでは、議題を終了し、進行を事務局にお返しします。

事務局 長時間にわたりありがとうございました。

これを持ちまして、平成30年度第1回富里市産業振興推進会議を終了させていただきます。ありがとうございました。